

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第11号（2月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海などへの汚染防止)
(養蚕，養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

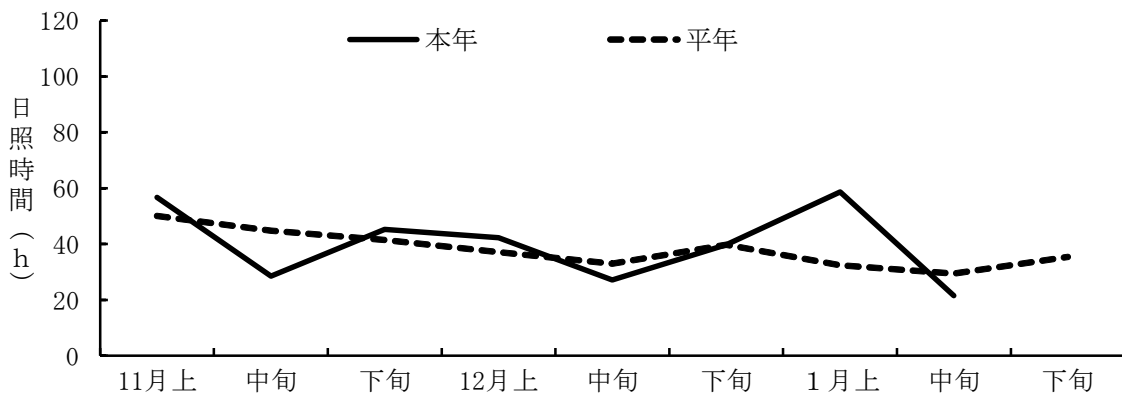
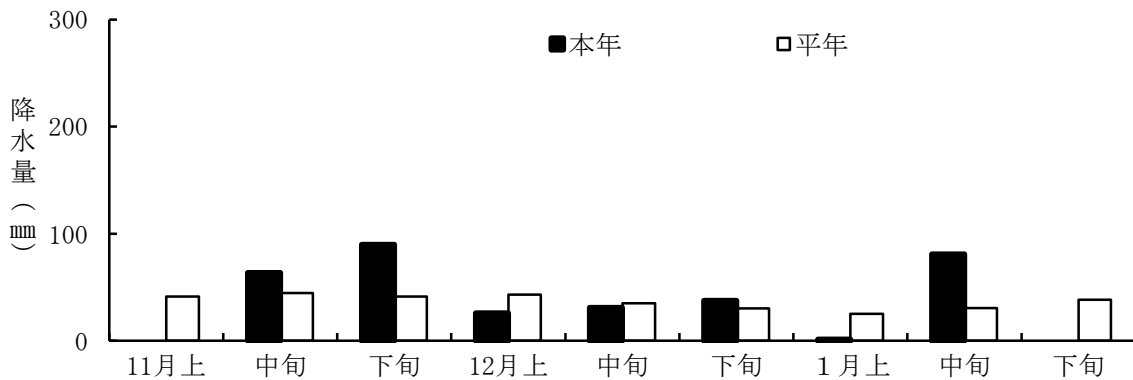
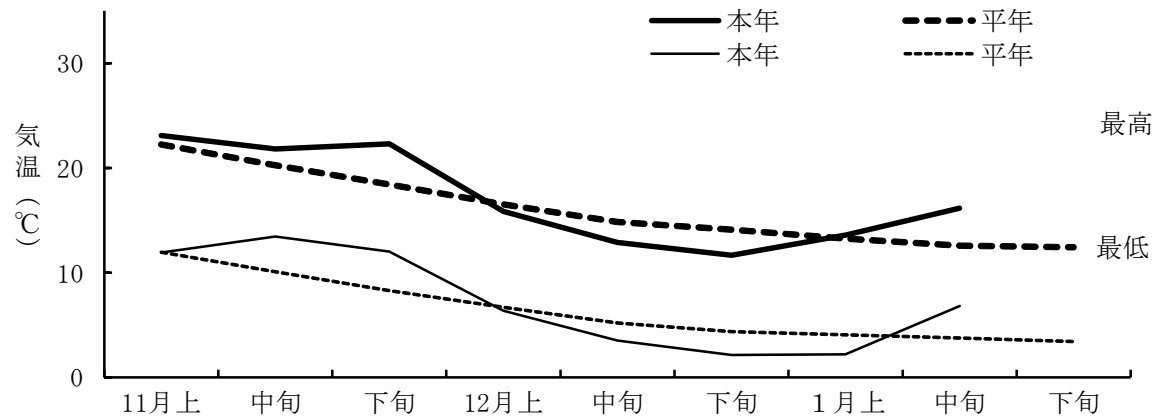
農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（1月28日から2月27日） 令和5年1月26日 鹿児島地方气象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	40	30	30	九州南部の気温，降水量，日照時間のいずれも平年並みの見込み。奄美地方の気温，降水量，日照時間のいずれも平年並みの見込み。
	奄美地方	30	40	30	
降水量	九州南部	40	30	30	
	奄美地方	40	30	30	
日照時間	九州南部	30	30	40	
	奄美地方	30	30	40	

II. 11～1月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量	
			現況	予報
野菜	キュウリ	べと病	やや少	やや少
		退緑黄化病	多	多
		黄化えそ病	やや多	やや多
	トマト	疫病	やや少	やや少
	ピーマン	斑点病	並	並
		アザミウマ類	多	多
	イチゴ	アザミウマ類	多	多
		ハダニ類	やや多	やや多
	施設野菜共通	灰色かび病	やや多	やや多
		うどんこ病	やや多	やや多
		菌核病	並	並
		コナジラミ類	やや多	やや多
	エンドウ類	うどんこ病	やや多	やや多
		ハモグリバエ類	やや多	やや多
		アザミウマ類	並	並
	キャベツ	菌核病	やや少	やや少
	バレイショ	疫病（熊毛地域）	多	多
		〃（奄美地域）	やや少	やや少
軟腐病（熊毛地域）		多	多	
〃（奄美地域）		多	多	
花き	キク	菌核病（熊毛地域）	多	多
		〃（奄美地域）	多	多
		ハダニ類（県本土，施設）	並	並
		アザミウマ類（県本土，施設）	並	並
		〃（奄美地域，露地）	やや少	やや少

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項

1. 水稻

(1) スクミリンゴガイ

早期水稻、普通期水稻でともに増加しており、以下の防除対策に取り組む。

ア 発生ほ場では2月までの極寒期に、トラクターでほ場を耕耘（走行速度を遅く、ロータリーの回転は速くする）して、土壌中の貝を寒風にさらすとともに破碎する。

イ 用水路内での越冬場所をなくし、水田への貝の侵入を減少させるため、水路での泥上げや除草に努める。

2. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<育苗床>

ア 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。

イ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。

<採苗>（超早掘用）

ア 基腐病等の感染を抑えるため、地際部から5cm（2～3節）以上の高さの位置で採苗する。

イ 採苗するハサミの刃先は、こまめにバーナー等であぶって殺菌・消毒する。

ウ 苗消毒は、採苗後速やかに行う。薬液は、日光や汚れなどで消毒効果が減少するため、使用日ごとに毎回調整する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf, http://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221226173000-1.pdf), 農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第3版)
令和4年10月改訂



鹿児島県
さつまいも育苗の
ポイント
(令和4年12月)



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
(令和3年度版)

Ⅱ. 野 菜

1. キュウリ

(1) ベと病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

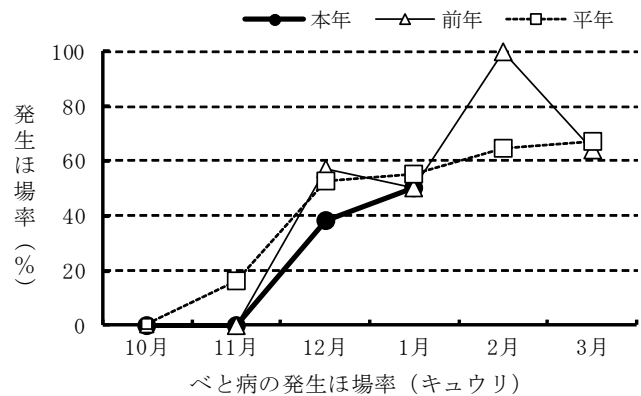
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率50%（平年55%）

：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウスの通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) 退緑黄化病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率75%（平年17%）：高い（＋）

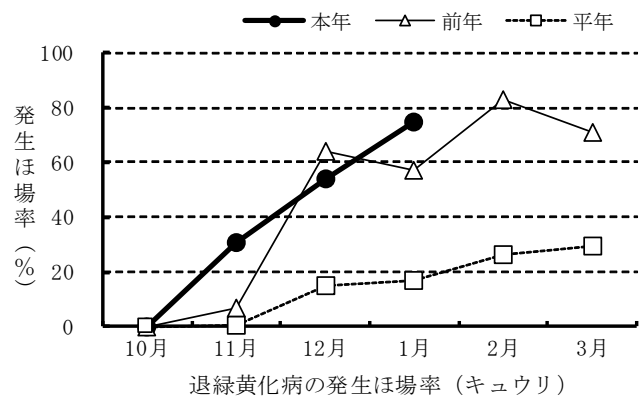
コナジラミ類の

発生ほ場率42%（平年26%）

：やや高い（＋）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 退緑黄化病の病原ウイルスはタバココナジラミが媒介するので、ハウス内に黄色粘着トラップを設置し早期発見、早期防除に努める。
- (イ) 発病株を認めたら速やかに除去し、ハウス外に持ち出して適切に処分するか、ビニール袋等に入れて処分する。
- (ウ) 発病後は発生拡大を防ぐため、タバココナジラミの密度を抑えるように薬剤防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



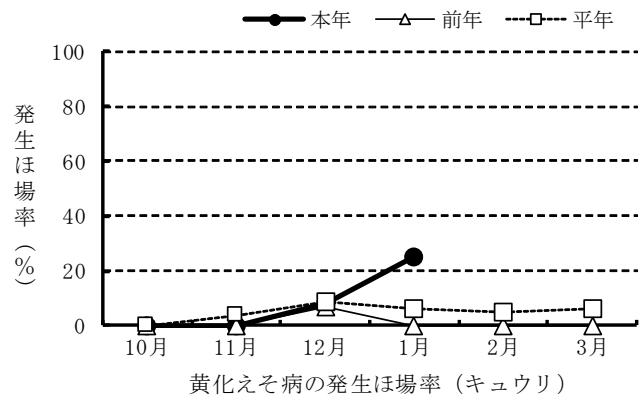
(3) 黄化えそ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率25%（平年6%）：高い（+）
発生程度は低い（-）
アザミウマ類の発生ほ場率0%
（平年6%）：やや低い（-）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄化えそ病の病原ウイルスはミナミキイロアザミウマが媒介するので、ハウス内に青色粘着トラップを設置し早期発見，早期防除に努める。
- (イ) 発病株を認めたら速やかに除去し，ハウス外に持ち出して埋没処分するか，ビニール袋等に入れて処分する。
- (ウ) 発病後は発生拡大を防ぐため，ミナミキイロアザミウマの密度を抑えるように薬剤防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

2. トマト

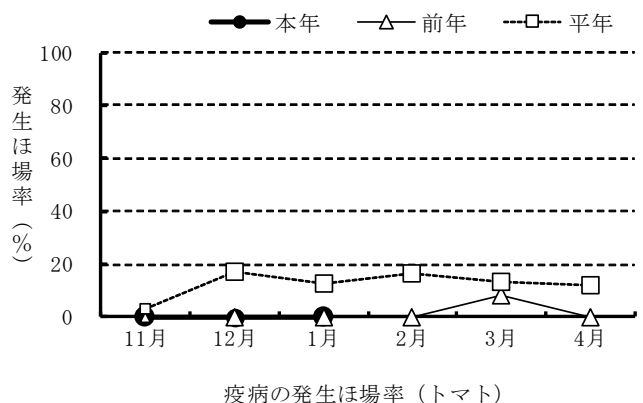
(1) 疫病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0%（平年13%）
：やや低い（-）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行ない，過湿にならないよう努める。
- (イ) ハウス内の湿度が高く結露が多い場合は，強制的に加温を行い湿度低下を図る。
- (ウ) 発病すると急激にまん延しやすいので，発病茎葉は速やかにハウス外へ持ち出す。
- (エ) ハウスの谷部や北側等，結露し水滴の落ちやすいところで発生が多いので，早期発見し，初期防除に務める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

3. ピーマン

(1) 斑点病

ア 予報内容

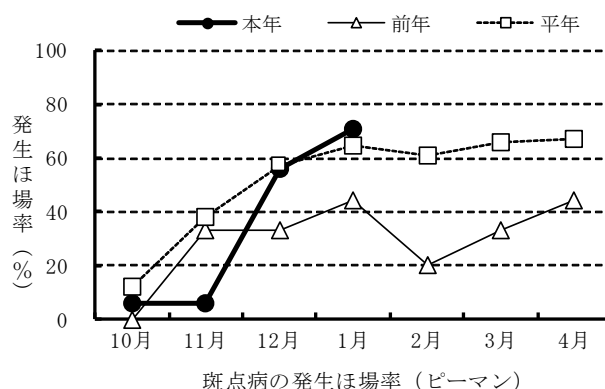
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率71%（平年64%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (ウ) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類 (令和4年度技術情報第12号 (令和5年1月27日付け) 参照)

ア 予報内容

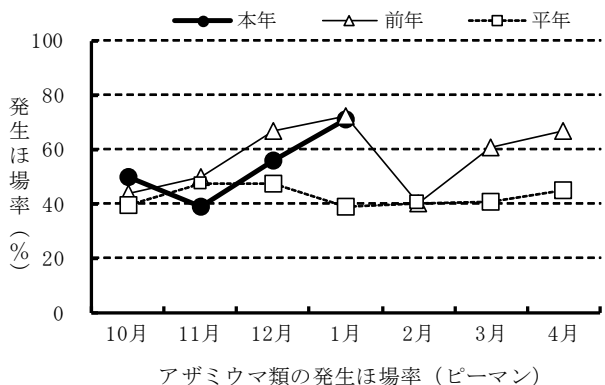
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率71%（平年39%）：高い (+)
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス内に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 本虫は花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

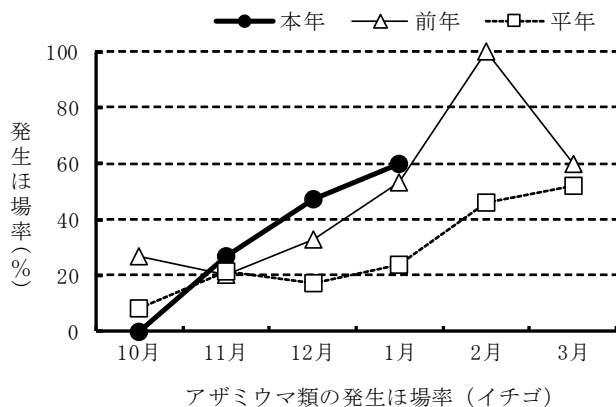
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率60%（平年24%）：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス内に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 本虫は花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。



- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響のない薬剤を選択する。また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- (オ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。

(2) ハダニ類 (令和4年度技術情報第9号 (令和4年11月29日付け) 参照)

ア 予報内容

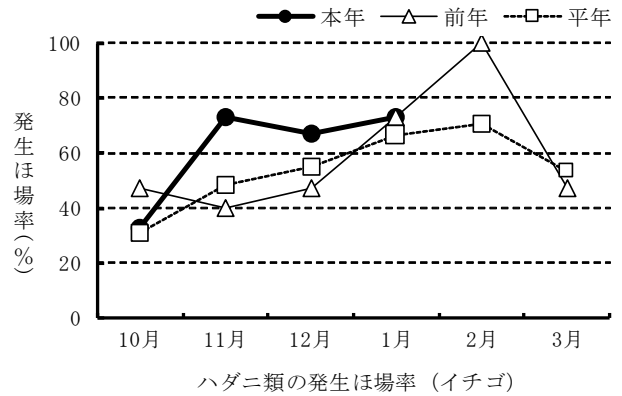
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率73% (平年66%)：並
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (イ) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 薬剤によっては感受性が低下しているのので、散布後は防除効果を確認する。
- (エ) カブリダニ等の天敵を放飼しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- (カ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。



5. 施設野菜共通

(1) 灰色かび病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, トマト, ミニトマト, ピーマン, イチゴ, サヤインゲン
- (ウ) 発生量 やや多

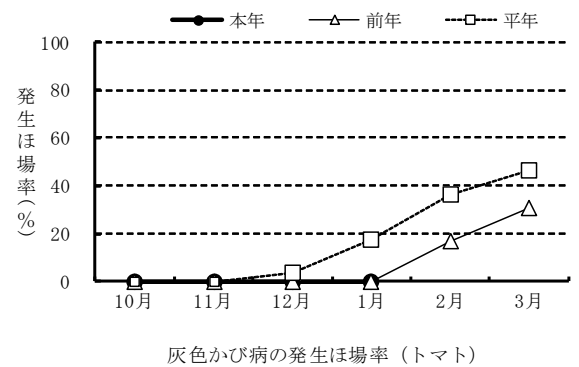
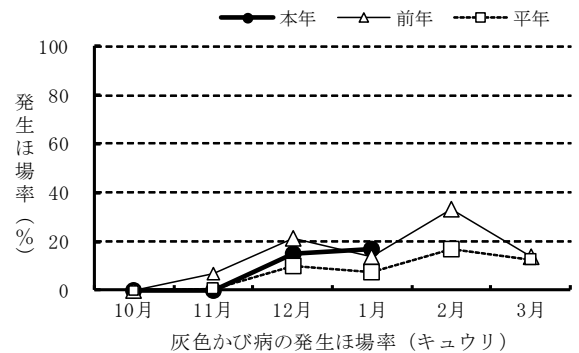
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		発生量
	本年	平年	
キュウリ	17	7	多
トマト	0	18	少
イチゴ	20	12	やや多

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行ない、過湿にならないよう努める。
- (イ) 果実部やへたの付近に付着する花卉は本病の発生源となるので、こまめに除去する。
- (ウ) 発病葉や発病果実はビニール袋等に入れてほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, メロン, ピーマン
トマト, ミニトマト, イチゴ
- (ウ) 発生量 やや多

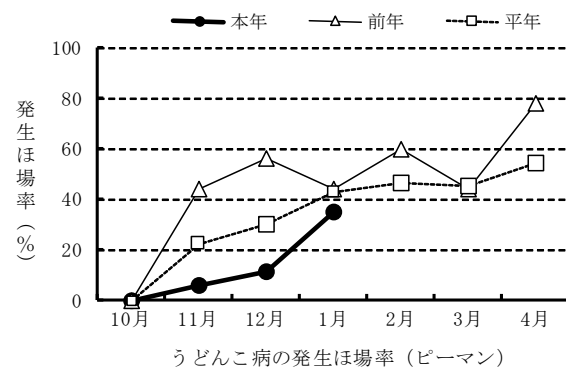
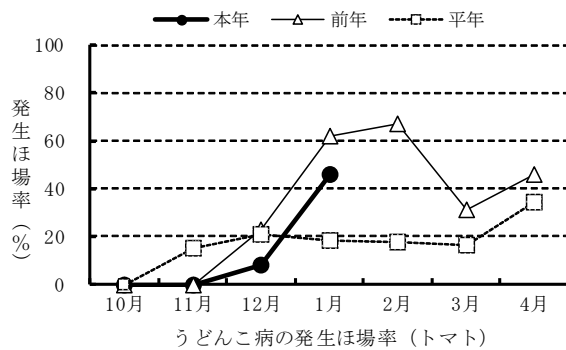
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概評
	本年	平年	
キュウリ	8	26	やや少
トマト	46	19	多
ピーマン	35	43	並
イチゴ	27	12	やや多

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(3) 菌核病 (令和4年度技術情報第10号 (令和4年12月23日付け) 参照)

ア 予報内容

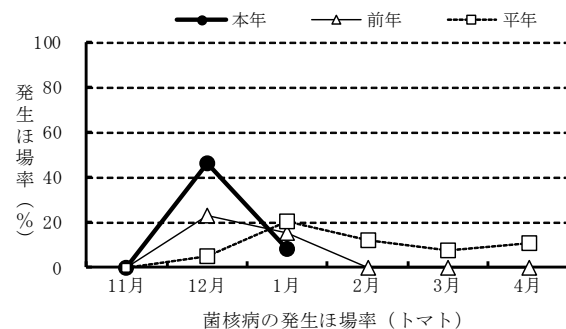
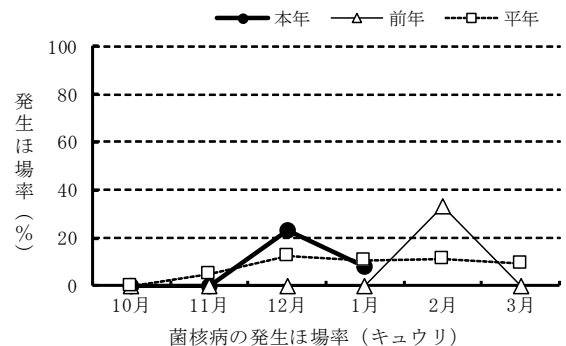
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, メロン,
トマト, ミニトマト,
ピーマン, ナス, イチゴ,
サヤインゲン

- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並

作物名	発生ほ場率 (%)		概評
	本年	平年	
キュウリ	8	10	並
トマト	8	18	やや少
ピーマン	6	3	やや多
イチゴ	0	1	並



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病に注意し予防散布に努める。
- (ウ) 病原菌は活力の衰えた花びらや枯葉、整枝後の傷口、枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。

- (エ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病した花卉、枝葉、果実等は直ちに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- (オ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- (カ) 適切な肥培管理により植物体が過繁茂にならないようにする。
- (キ) 収穫終了後の残さは適正に処分する。

(4) コナジラミ類

ア 予報内容

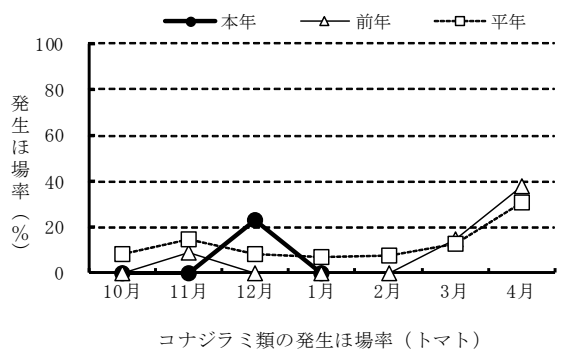
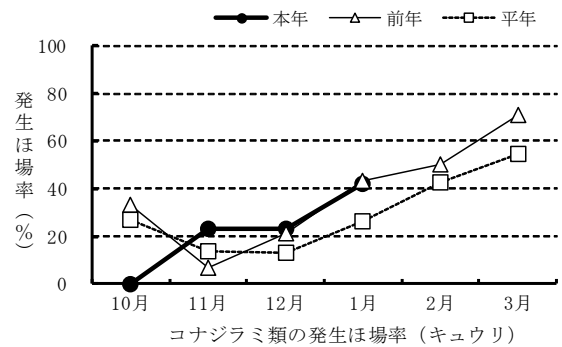
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ、メロン、トマト、ミニトマト、ピーマン、イチゴ、サヤインゲン
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概 評
	本年	平年	
キュウリ	42	26	やや多
ト マ ト	0	7	やや少
ピーマン	47	20	多
イチゴ	7	13	やや少

注) ピーマンはタバココナジラミの調査結果



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリやメロンにウリ類退緑黄化病、トマトやミニトマトにトマト黄化葉巻病等の病原ウイルスを媒介する。ウイルス病が発生すると被害が大きくなるので、以下の点に注意して総合的な防除対策に努める。
 - ・ハウス内に黄色粘着トラップを設置して早期発見・早期防除に努める。
 - ・発病株は伝染源になるので、疑わしい株も含め、見つけしだい除去し、ハウス外に持ち出して埋没処分するか、ビニール袋等に入れて処分する。
- (イ) サヤインゲンでは莢に白化症を、トマト、ミニトマトでは着色異常果を生じる恐れがあるので、早めに防除する。
- (ウ) カブリダニ等の天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

6. エンドウ類

(1) うどんこ病

ア 予報内容

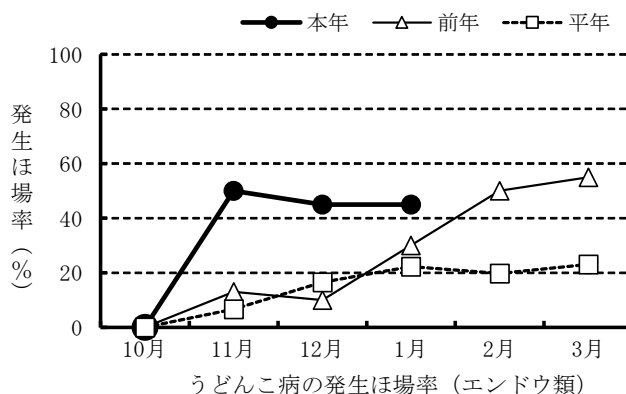
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率45%（平年22%）：高い
発生程度は低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 莢にごま症を発生させ、商品性の低下を招く。多発すると防除が困難になるので、定期的な防除を行う。
- (イ) 下位葉の葉裏から発生しやすいので、薬剤が十分かかるように散布する。
- (ウ) 多発ほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。



(2) ハモグリバエ類

ア 予報内容

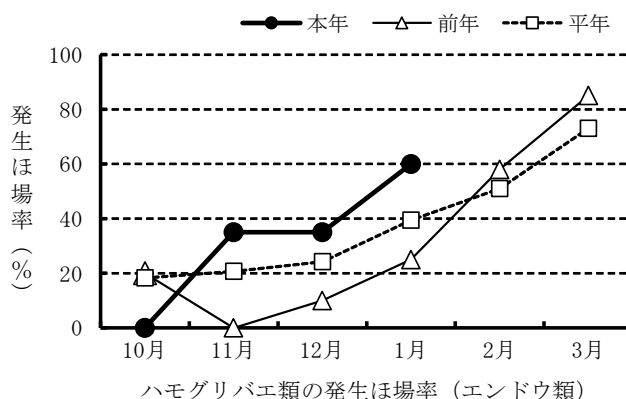
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率60%（平年39%）
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) これからの時期は葉裏側に潜行するハモグリバエが多くなる。葉裏をよく観察し、早期防除に努める。
- (イ) 薬剤は葉裏にも十分かかる様に散布し、多発ほ場では5～7日おきの連続散布で徹底した防除を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

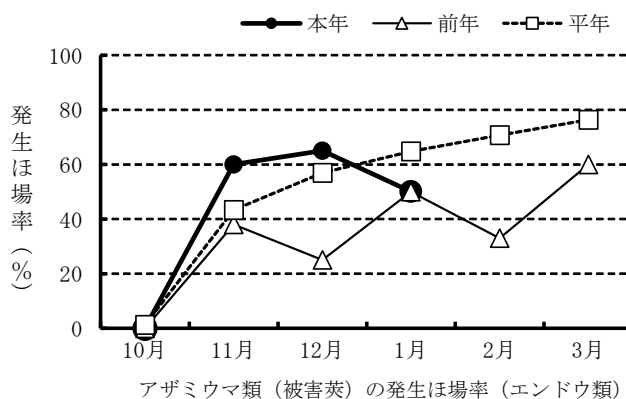
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率50%（平年65%）
：やや低い（-）
発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) アザミウマ類は若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、早期防除に努める。
- (イ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



7. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
 (イ) 発生量 やや少

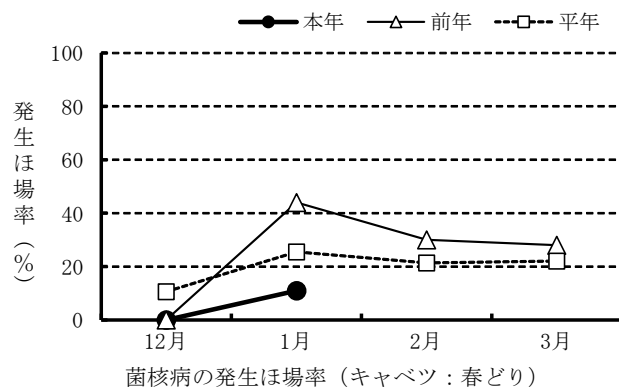
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
 発生ほ場率11%（平年26%）

：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、天候に注意し、予防散布に努める。
 (イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。
 (ウ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉は見つけ次第取り除く。
 (エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。
 (オ) 収穫終了後の残さは適正に処分する。特に発病残さをほ場に残さない。



8. バレイショ

(1) 疫病（令和4年度技術情報第11号（令和4年12月23日付け）参照）

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 熊毛地域，奄美地域
 (イ) 発生量 熊毛地域：多
 奄美地域：やや少

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

- (ア) 調査結果 発生量：多
 発生ほ場率67%（平年18%）：高い（＋）

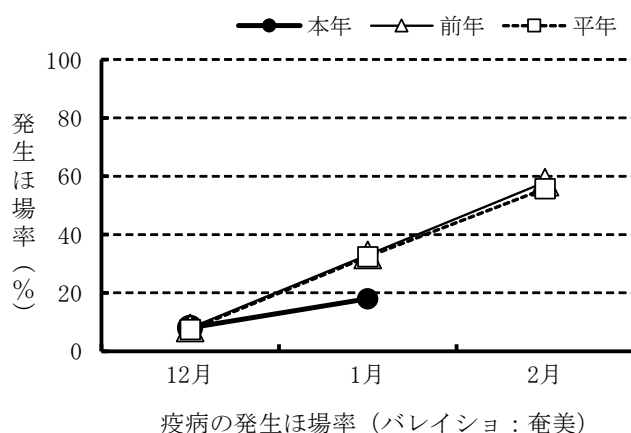
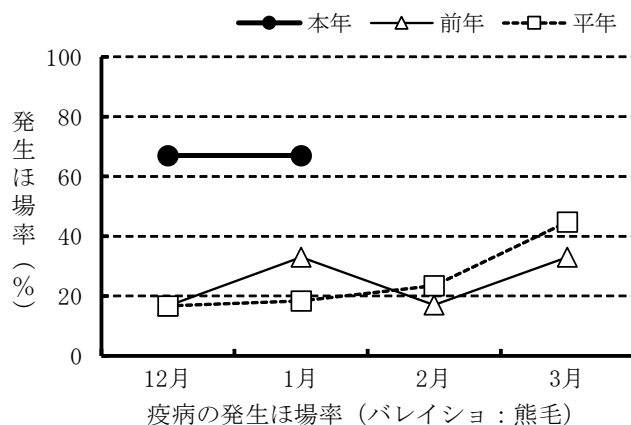
<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
 発生ほ場率18%（平年33%）

：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 土壌水分が高い場合に発生しやすく、発病後は急速に病勢が進展する。防除は予防散布に重点をおき、適期を逃さないように注意する。
 (イ) ほ場の見回りを行い、発生が認められたら直ちに治療効果のある薬剤を散布する。その後は、進展状況に応じて7～10日後に追加散布を行う。
 (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
 (エ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため、適期収穫を行う。
 (オ) 収穫残さは次年度の伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適正に処分する。



(2) 軟腐病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域
- (イ) 発生量 熊毛地域：多
奄美地域：多

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

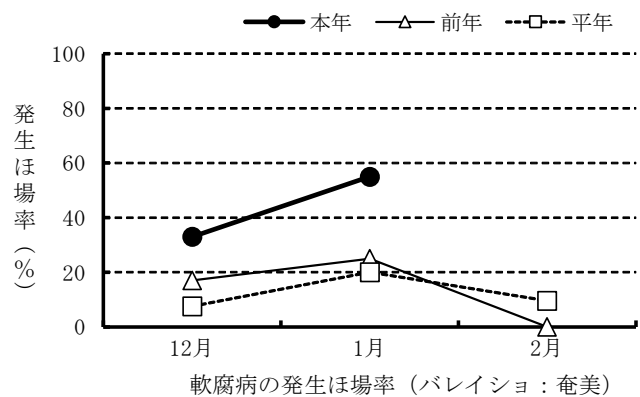
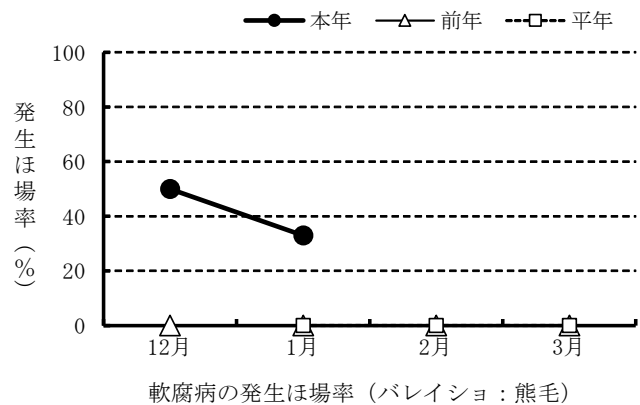
- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率33% (平年0%)：高い(+)

<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率55% (平年20%)：高い(+)
強風による茎葉の折損が多い(+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 土中の病原細菌が茎葉, 塊茎の傷口から侵入する。前年に発生したほ場や風傷み等付傷があるほ場では特に発病に注意し, 早期防除に努める。
- (イ) 収穫終了後の残さは適正に処分する。特にくずイモ等の発病残さをほ場に残さない。



(3) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域
- (イ) 発生量 熊毛地域：多
奄美地域：多

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

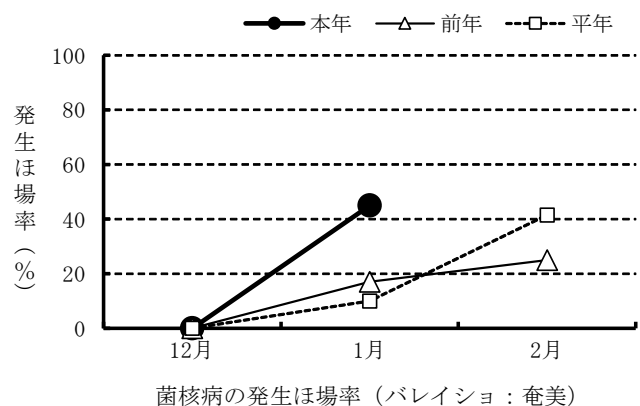
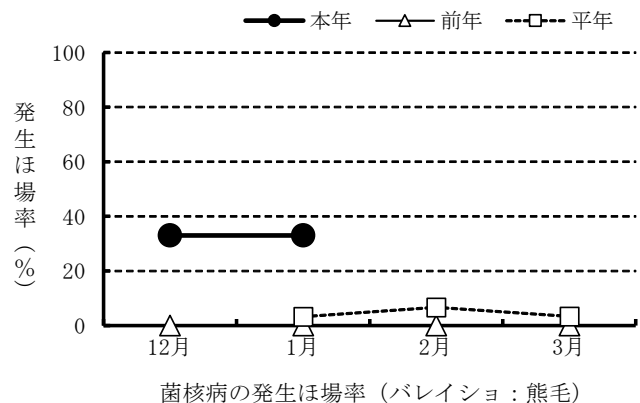
- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率33% (平年3%)：高い(+)

<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率45% (平年10%)：高い(+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので, 天候や排水状況に注意する。
- (イ) 定期的にはほ場の見回りを行い, 発病を確認し次第, 早期防除を行う。
- (ウ) 病原菌は地際部や枝分岐部付近から感染しやすいので, 薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。
- (エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので, 菌核を生じないうちにほ場外へ持ち出し処分する。



Ⅲ. 花き（キク）

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量

県本土（施設） 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率40%（平年29%）

：やや高い（+）

発生程度は低い（-）

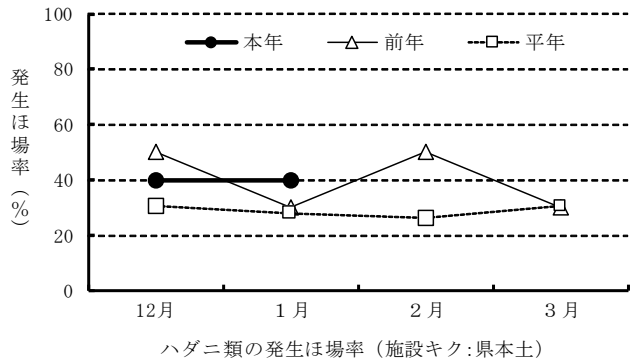
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生するケースが多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内と周辺の雑草や収穫後の残さ等は早めに除去し、適正に処分する。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） 並

奄美地域（露地） やや少

イ 予報の根拠

<県本土（施設）>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率40%（平年27%）

：やや高い（+）

発生程度は低い（-）

<奄美地域（露地）>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率20%（平年40%）

：やや低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) ミカンキイロアザミウマ等一部のアザミウマ類はキクえそ病（TSWV）

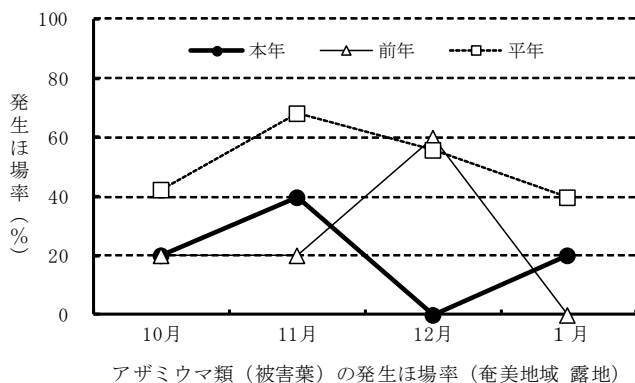
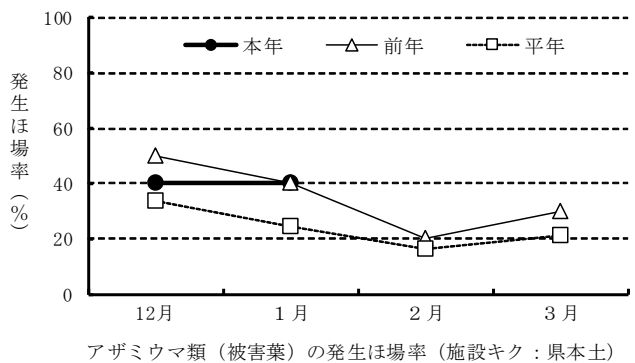
とキク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(イ) 発生動向を把握するためには、出入口付近等に青色粘着シートを設置する。

(ウ) アザミウマ類は、種によって薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選定に注意する。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(オ) ミカンキイロアザミウマは上位葉に、クロゲハナアザミウマは中下位葉に寄生しているため、薬剤は株全体にかかるよう丁寧に散布する。



農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り，記載された用途，方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて，適切な防除衣，保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. **散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり，流出したりしないよう十分注意する。**
6. **クロルピクリン剤は，住宅地および畜舎に隣接するほ場や，無風の時，土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。**
7. ランネート剤は毒性が強いので，施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬，不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し，鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は，前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は，各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。
- 発生ほ場率と調査場所を記載しない発生数・発生率は，巡回調査の結果。
- 果樹と茶樹の定点防除園又は無防除園は，果樹部と茶業部での調査結果。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+），（-）は，発生量の増加，減少要因を示す。
- 気象予報は，向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用い，本年調査値の後に（平年〇〇）で表記する。ただし，過去3年間の平均値を用いた場合は（過去3年〇〇）と表記する。